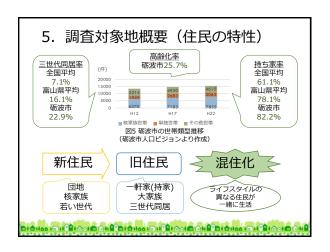


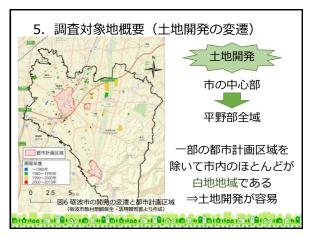


4. 研究目的と方法 研究目的: 砺波市への流入者の実態を把握し, 住宅団地形成の要因と, その住宅団地の 居住者がどのような性質を持つ集団かを 明らかにする. 研究方法: 聞取り調査 (2017年11月19日~12月9日) 内容: 世帯主の年齢, 家族構成 前住居の形態と場所, 引っ越しの動機 現居住地の選択理由

※小田島(1999)を参考

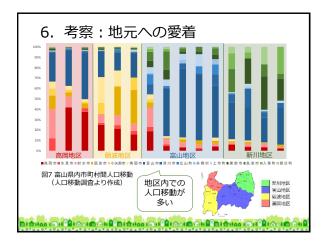






6. 考察:潜在的他出者
伊藤(1984):跡継ぎではなく,他家の跡継ぎの配偶者にもならない者
⇒『潜在的他出者』と定義

砺波地方…長男相続が一般的
次男で生まれる(→潜在的他出者)
「新家」としての新居探し
自分の家をもって一人前という概念





7. 結論

流入者の特性は

- ・『潜在的他出者』が多い
- …「新家」を確保する必要性がある
- ・近隣市町村からの移動が多い
 - …地元志向が強い
- ・利便性が高いイメージがある
- …商業施設の立地,交通の充実

⇒居住地として当該地域を選択

8. おわりに

砺波市の開発住宅団地は今後も 増え続けると予想されている

苗加中央団地 苗加みなみ台団地 子供の成長に伴い住み方に変化 居住変更の可能性 空き家問題に発展する場合も



住宅へのニーズを確認 計画的な住宅供給

9. 参考資料

伊藤達也 1984. 年齢構造の変化と家族制度からみた戦後の人口移動の推移. 人口問題研究172:24-3. 小田島転和 1999. 福井郎市圏縁辺部の新興住宅団地への住居移動、福井大学地域環境研究教育センター研究紀要「日本海 地域の目然と環境」 6:65-80.

等級リ四部に明現 1 5:55-80. 金田韓治 1990、被突撃野における中心集落から敷村地区への住居移転、報波散村地域研究所研究局勢 7: 1-40. 44日重希子・中山徹 2004、都波散村における住宅団地開発に関する研究、日本建築学会近畿支部研究報告集44:493-

砺波市立砺波散村地域研究所 2010. 砺波平野の散村.

http://databank.tonamino.jp/sansonkaiteiban 砺波市 2012. 砺波市景観まちづくり計画.

http://www.citv.tonami.tovama.ip/doc/info/08/1396402408/s/doc 1.pdf?1396500714

砺波市 2009. 砺波市散村景観保全・活用調査報告書.

MOZEU 2009: MOZEURATSKREKE - CATHMERICAE Https://www.city.to.nami.to.yoma.jp/doc/service/47/1314238247/s/doc_1.pdf?1314254564 磁波市 2015. 磁波市人ロビジョン 平成27年度版.

https://www.city.tonami.toyama.jp/doc/info/97/1445818997/s/doc_1.pdf?1446160550 砺波市ホームページ (2018年1月確認)

物点(II)ハーエハーシ (2016年1月報金) http://www.city.tonami.toyama.jp/ 破波市史編纂委員会編 2004. 『砺波市五千年史』 砺波市役所. 富山県 2013. 砺波都市計画区域マスターブラン

milina 2013. 地区が18 imilia (4 ペンデン・ 計算が対象が表現する。 高程期 1985. 混住地域における生活環境経過. 原村計画学会誌4(2):35-42. 橋本書籍・中華久孝子・谷口子・松中弥文 2007. 地方態の都市における住宅地タイプに着目した都市拡充の実態に関する 研究、都市計画変表(4)37:27-27.